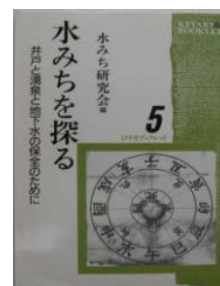


13. 「水みちを探る---井戸と湧泉と地下水の保全のために」

水みち研究会編
けやき出版（1992）
A5判(148×210)
p.69 本体価格 485 円+税



目次

はじめに

野川と湧泉と地下水、地下水を知る手がかり---水みち、「水みち」を探る

井戸を使う人の話

「国分寺地区」

井戸を潰すと不幸に、井戸は使えば使うほどよい、雑木林が水を蓄えている、水道水は捨てるでも井戸水は一滴も捨てない、みんなで維持する共同井戸

「小金井地区」

井戸は生き物、使わないと駄目になる、代々井戸を使い続けて百数十年、今でも生水がおいしい、経済的な井戸水、井戸水の方がよく卵を産む

「調布地区」

鳥の羽根で水さがし、七人組で井戸掘り、「出」と「水口」、ものもらいが治るふしぎ

井戸を掘り人の話

潤れない井戸を掘る名人、危険な井戸掘り仕事、「いぬい便所」に「たつみ井戸」

井戸と水みち

井戸は今も生きている、井戸には神が宿る、使うことで水みちがつくられる、木と水みちは共生している、湧泉を育む水みち

水みちマップ

水みちを地図に、水みちの様子、水みちの研究、水みちと行政の取り組み

地下環境の保全

地域の水循環の回復を、それぞれの地区の特性を生かして、井戸の復権、(カコミ記事) 調査の方法、アンケート調査の結果、各団体の紹介

あとがき

紹介コメント

A5判でp.69の冊子であるが、図や写真を用いてわかりやすく地下水について解説がされている。翌年に第2刷が増刷されているところを見ると広く普及した本である。